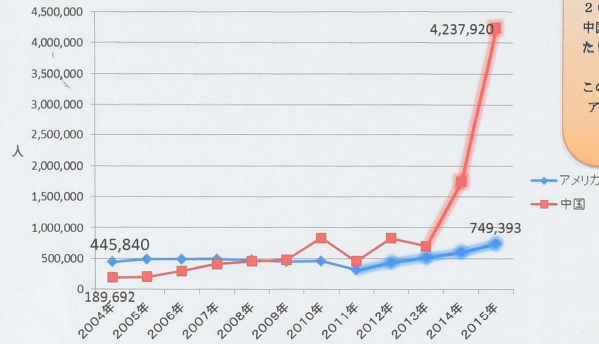


# 外国人観光客の動向

## ～アメリカ人と中国人の比較～

観光客数の推移



出典：日本政府観光局(UNTO)「国籍/目的別訪日外客数(2004年～2015年)」

2004年～2009年にかけては、アメリカは横ばい、中国は漸増と緩やかな動きだった。しかし、2012年あたりからどちらの国も動きが変わり、アメリカは増加しはじめ、特に中国は急激に増加している。この12年間で観光客数の少なかった中国が大きく増え、アメリカよりもはるかに多くなったことがよくわかる。

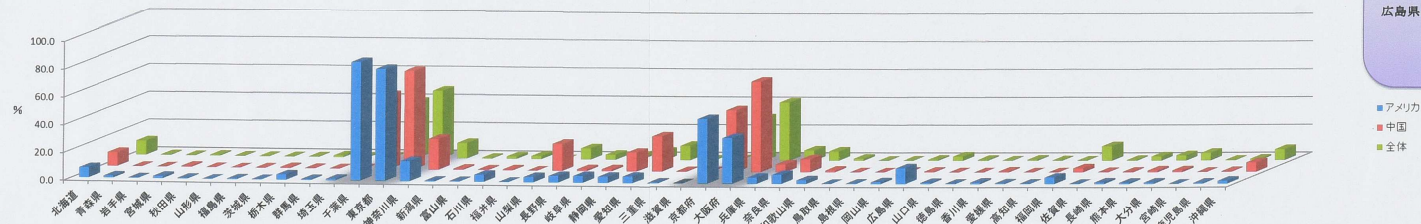
日本への距離が遠いからか、アメリカは中国と比べても全体と比べても滞在期間が長い傾向にあると思われる。一方、距離が近い中国は4～6日間の割合が高いことが分かる。

滞在日数



出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」(平成27年の年間値の推計)

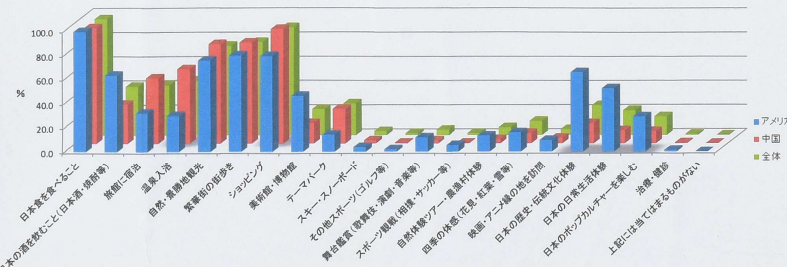
各都道府県の訪問率 (複数回答)



出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」(平成27年の年間値の推計)

どちらの国も、千葉県・東京都・京都府・大阪府に集中している。千葉県は成田空港があるからだと考えられる。ほかの所で見ると、アメリカは原爆ドームのある広島県が、中国は富士山のある山梨県・静岡県、愛知県が比べて多い。

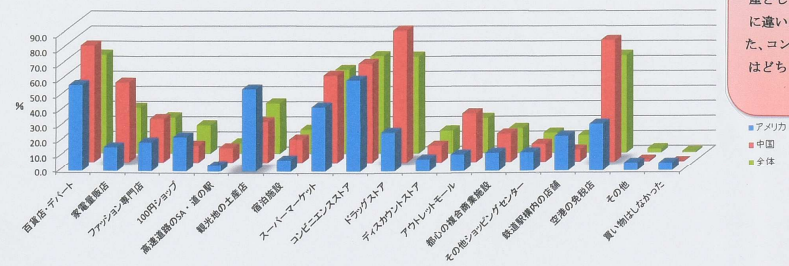
日本でしたこと (複数回答)



出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」(平成27年の年間値の推計)

全体として、日本食を食べること、自然・景勝地観光、繁華街の街歩き、ショッピングが高い割合になっている。が、ショッピングは、やはり「爆買い」で知られる中国が少し多い。温泉入浴もやや多い。またアメリカは日本の歴史・文化体験、日本の日常生活体験、日本のポップカルチャーを楽しむといった日本の文化を楽しむ内容の割合が他より多い。このように、アメリカと中国で観光の内容に差があることがわかる。

買い物をした場所 (複数回答)



出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」(平成27年の年間値の推計)

さすが、爆買いの中国。百貨店・デパート、家電量販店、ドラッグストア、空港の免税店が他と比べて多い。対するアメリカで多いのは観光地の土産店。お土産として買って帰るものに違いがあるようだ。また、コンビニエンスストアはどちらも高い割合だ。